日本行動計量学会

第46回大会 プログラム冊子

Program of the 46th Annual Meeting of the Behaviormetric Society

2018年9月3日（月）～9月6日（木）

慶應義塾大学
Keio University

共催：慶應義塾大学産業研究所

日本行動計量学会
第 46 回大会プログラム

2018 年度の第 46 回行動計量学会大会を慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催致します。会員の皆様にはぜひ積極的にご周知を賜りますようお願い申し上げます。

弊学は福澤諭吉が 1858 年に開いた蘭学塾を 1868 年慶應義塾と改名したものです。1920 年に大学令により日本初の私立大学として認可されましたが、実質的には 1877 年に設立された東京大学に先立つ日本最古の高等教育機関といえます。例えば創設者である福沢諭吉は日本学士院の前身たる東京学士院の初代院長、東京帝国大学初代総長である渡辺洪基も慶應義塾出身であり、福澤らが一橋大学や早稲田大学、中央大学、専修大学等の創設にも助力するなど、明治時代初めより日本の学術の発展を支え、官界・産業界にも人材を輩出しております。今回、日本行動計量学会という学際的な学会の大会が、日本の学術の源の一つである弊学において開催されることは誠に喜ばしいことと存じます。

さて、このように記しますと今回が弊学での初の開催かと思われるかもしれません（私もそう思ってお引き受けしました）。しかし実は弊学はすでに一度、1980 年の第 8 回大会を当時工学部（1981 年より理工学部に名称変更）の藤田廣一先生を実行委員長としてお引き受けしているとのことです。但し日吉キャンパスでの開催であったそうで、本部のある三田キャンパスでお引き受けするのは初めてとなります。三田キャンパスは品川駅と浜松町駅から山手線でそれぞれ一駅と、新幹線や羽田空港からの便もよく、東京での大会においては地方の先生方の移動のご負担を最小限にできると考えます。

またこの度の大会は学内においては私が兼担教員を務める慶應義塾大学産業研究所との共催とさせて頂きました。これにより弊学での通常の学会大会に比較して学会日程の早期確定と会場費の一部減免が実現しております。この場をお借りして産業研究所に御礼を申し上げます。

慶應義塾は創立者福澤諭吉の「実学」の精神を重視してまいりましたが、ここでの実学とは science であり、形而上学ではなく実証科学を指すとのことです。行動計量学が人間行動に関わる実証科学とその社会への応用還元を行う学問としてさらに発展する契機になる本大会を盛り立てるべく、実行委員一同、最善を尽くす所存です。

ぜひ多くの方々のご発表とご参加をお待ち申し上げます。

第 46 回大会実行委員長　星野　崇宏
（慶應義塾大学経済学部）

大会の概要

1. 基本情報

(1) 期　間：2018 年 9 月 3 日（月）～2018 年 9 月 6 日（木）
3 日（月）は、チュートリアルセミナー

(2) 場　所：慶應義塾大学三田キャンパス（東京都港区三田 2-15-45）

(3) URL：http://bsj.wdc-jp.com/2018/

(4) 問い合わせ先：
大会ヘルプデスク（bsj-desk@bunken.co.jp）
大会実行委員会（bms2018taikai@gmail.com）

(5) 大会の構成：

9 月 3 日（月）	14:15～20:30（受付開始 13:30） チュートリアルセミナー
9 月 4 日（火）	10:00～17:30（受付開始 9:30） 特別セッション、一般セッション、ラウンドテーブル・ディスカッション
9 月 5 日（水）	9:30～11:30（受付開始 9:00） 特別セッション、一般セッション、ラウンドテーブル・ディスカッション
	12:30～14:00 ポスター発表
	14:10～15:40 大会シンポジウム
	15:50～16:50 柳井レクチャー
	17:00～18:00 総会
	18:20～21:00 懇親会
9 月 6 日（木）	9:30～14:30（受付開始 9:00） 特別セッション、一般セッション、ラウンドテーブル・ディスカッション

2. 大会までのスケジュール

2018 年 1 月 25 日（木）	Web サイト公開
2018 年 3 月 1 日（木）	特別セッションの企画募集開始
2018 年 4 月 2 日（月）	大会参加事前申込、一般発表申込、抄録原稿受付 チュートリアルセミナー参加申込、各種開始
2018 年 4 月 26 日（木）	特別セッション企画募集締め切り
2018 年 5 月 31 日（木）	一般研究発表申込締め切り
2018 年 6 月 18 日（月）	抄録原稿提出締め切り
2018 年 6 月 29 日（月）	速報版プログラムウェブ公開
2018 年 7 月 27 日（金）	プログラム冊子送付
2018 年 8 月 3 日（金）	事前参加申込締め切り
2018 年 8 月 7 日（火）	事前参加費振込締め切り

2018 年 9 月 3 日（月）～9 月 6 日（木） 第 46 回大会（チュートリアルセミナーは 3 日（月））

3. 参加費等

(1) チュートリアルセミナー参加費

テーマ A

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	3,000 円	2,000 円	3,000 円	6,000 円	4,000 円
当日支払	4,000 円	3,000 円	4,000 円	7,000 円	5,000 円

テーマ B

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	3,000 円	2,000 円	4,000 円	7,000 円	5,000 円
当日支払	4,000 円	3,000 円	5,000 円	8,000 円	6,000 円

- 早期振込は Web による参加申込(8 月 3 日(金)まで)と、参加費振込(8 月 7 日(火)まで)をともに行われた方が対象です。それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。
- 早期振込の特典として、両テーマ参加希望者は 1,000 円の割引が適用されます。

(2) 大会参加費

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	5,000 円	2,000 円	5,000 円	10,000 円	5,000 円
当日支払	7,000 円	4,000 円	7,000 円	12,000 円	6,000 円

- 大会参加費には抄録集 1 冊を含みます。
- 正会員には名誉会員・シニア会員を含みます。
- 賛助会員は 3 名様まで無料です。事前に参加券を 3 枚お送りしますので、この券を持参された方が対象です。4 人目以降は、上記金額です。なお、事前参加申込みより無料の登録を行った方も、当日必ず参加券をご持参ください。
- 抄録集は 1 冊 3,000 円で頒布します。
- 早期振込は Web による参加申込(8 月 3 日(金)まで)と、参加費振込(8 月 7 日(火)まで)をともに行われた方が対象です。それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。

(3) 懇親会費

種別	一般	学生
早期振込	5,000 円	1,000 円
当日支払	6,000 円	1,000 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期振込は Web による参加申込(8 月 3 日(金)まで)と、参加費振込(8 月 7 日(火)まで)をともに行われた方が対象です。
- 当日支払い分は 9 月 5 日の午前中までに、受付で参加のお申込みと会費をお支払いください。

4. 振込先

	ゆうちょ銀行 振替口座
記号番号	00190-4-386225
加入者名	日本行動計量学会大会
口座名称(カナ)	ニホンコウドウケイリョウガッカイタイカイ

他の金融機関からゆうちょ銀行へお振り込みされる場合は、下記情報をご利用ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
店名	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
店番	019
預金種目	当座
口座番号	0386225

※恐れ入りますが、振り込み手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。参加費のお振込みまで完了頂いた場合、参加キャンセルはできませんのでご注意ください。

5. 宿泊について

実行委員会から宿泊先の手配や斡旋は行っておりません。ご自身でご手配をお願いいたします。

無線 LAN

会場では eduroam を利用できます。また、慶應 ITC 提供の無線 LAN をご利用になれます。SSID やパスワードは当日受付にて配布します。

会場の機器と発表用資料について

「口頭発表」では液晶プロジェクタおよび大型スクリーンが利用できます。 コネクタは VGA 方式に対応しております。PC はご自身のものをご持参ください。MacOS の場合は変換アダプタをご用意ください。また、セッション開始前に接続テストを済ませてください。また、セッション前には接続テストを済ませてください。補足資料を利用する場合は、50 部程度を目安として配布プリントをご持参ください。

一般セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 46 回大会の一般セッションの発表形態には、「ポスター」と「オーラル（口頭）」があります。

【ポスター】

割り当てられたセッション中にポスターを掲示し、かつ各ポスターの発表者が在席責任時間の 60 分間、質疑に応じるセッションです。質疑に応じることにより正式発表とみなされます。在席責任時間中に発表者の在不在の確認をします。詳細については、別項目「ポスターセッションについて」をご覧ください。

【オーラル（口頭）】

発表時間は、質疑応答を含めて 20 分です。座長の指示に従い、時間厳守でお願いいたします。1 名様につき 1 演題まで、ご登壇いただけます。「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

特別セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 46 回大会の特別セッションの発表形態には、「オーラル（口頭）」と「ラウンドテーブル」があります。

【オーラル（口頭）】

1 セッション 120 分で、3 件以上の発表をまとめ、一つの企画として実施されます。セッションは、オーガナイザー、司会者、討論者により進行します。それぞれのテーマに沿って発表を行い、発表に関しては、フロアーからの質疑応答も可能です。その 1、その 2 として、複数セッションで実施することもあります。発表形式の詳細については、事前にオーガナイザーの方にお問い合わせください。また、あわせて「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

【ラウンドテーブル】

特別セッション「ラウンドテーブル」は、1 セッションの時間が 60 分または 120 分で、各セッション1～4 件の発表件数で実施します。全体の半分以上の時間を討論に充てるセッションです。詳細については、別項目「ラウンドテーブル・ディスカッションについて」をご覧ください。発表形式の詳細については、事前にオーガナイザーの方にお問い合わせください。また、あわせて「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

ポスターセッションについて

一般セッション「ポスター」は、2018 年 9 月 5 日(水)12:30～14:00 に西校舎ホール前から中央階段を会場として実施します。発表は、次の要項に従って行いますので、発表者の方は、間違いのないようにしてください。

【ポスター発表の成立について】

1. ポスター発表は、指定された時刻までに会場の指定されたボード位置にポスターを掲示し、指定された責任在席時間（60 分間）中、在席し、質疑に応じることにより、正式発表とみなされます。
2. 責任在席時間は、「CA8-1」の場合が 2018 年 9 月 5 日(水)12:30～13:30、「CA8-2」の場合が同 13:00～14:00 の 60 分間とします。責任在席時間以外の時間に在席されることは自由です。発表者の方は、自分の発表が「CA8-1」、「CA8-2」のどちらのセッションに属するのか、プログラムで必ず確認してください。
3. 12:30 と 13：00 に、ポスターセッションの座長が席に着き、発表者の在席を順次確認します。その後、13：30 と 14:00 にも発表者の在席を確認します。
4. ポスター発表者が欠席した場合、および責任在席時間にいない場合は、「発表取消」となります。発表者の欠席、（連名発表の場合の）発表者の交替などについては、会期前は大会実行委員会に、会期中はポスターセッション座長にご連絡ください。

【ポスターの準備について】

5. ポスター掲示板（ボード）の大きさは、横 180cm × 縦 90cm（A0 サイズのポスターが掲示可能）です。これをポスターの大きさの上限として作成してください。
6. ポスターの上部には、発表題目と発表者全員の氏名と所属をご記入ください。連名の場合には主発表者に○印を付けてください。

【発表当日について】

7. 発表者は、発表当日の 11:30 までに総合受付で発表手続を行ってください。発表者の到着確認を行います。その際、ポスター掲示用の押しピンを受け取り、発表会場の指定された番号のボードにポスターを貼ってください（もし別の方法でポスターを貼り付けたい場合は、必要なものをご持参ください）。
8. 発表者がどこで発表を行うかは、ポスター会場にわかるように掲示しますので、ご確認の上、ご準備ください。
9. 発表者は、11:30 までに貼り付け作業を終了してください。11:30 の時点で貼り付けが終了されていることを実行委員が確認します。
10. 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。補足資料を配布される方は、50 部程度をご持参ください。配布も各自でお願いします。
11. 掲示したポスターは、ポスターセッションの座長が終了をお知らせした後、16:00 までに片付けてください。それ以降も掲示したままのポスターは大会実行委員会で取り外し、処分いたします。

ラウンドテーブル・ディスカッションについて

【ラウンドテーブル・ディスカッションの目的】

ラウンドテーブル・ディスカッションは、円卓を囲み、話題提供者（「発表者」、「オーガナイザー」）のテーマにより自由に意見を交換しながら議論する場です。しかし、議論した結果が特定の結論に至ることを課題としません。

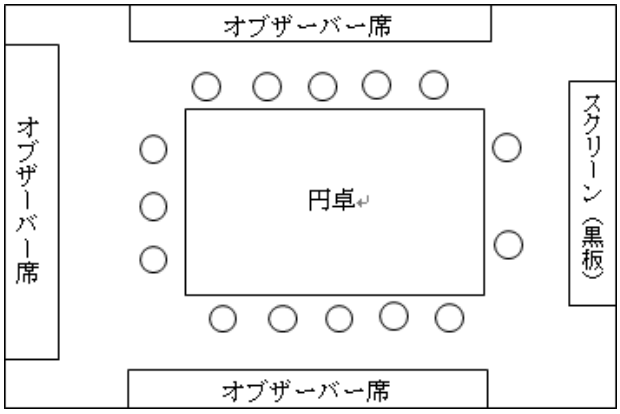
ラウンドテーブル・ディスカッションは研究成果を報告するだけではなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題についての解決策などを持ち寄り、参加者全員で当該のテーマについて議論します。また、これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それをもとに議論することも可能です。

また、議論した内容を踏まえた上で、話題提供者だけでなく、フロアーにいらっしゃる方々の研究についても、改めて深く考えていただき、今後のご自身の研究をどのように発展させたいかを考え、その内容をグループで共有し、さらに意見や感想をやりとりしていただくような研究者の交流の場としてもご活用いただければと思います。テーブルを囲む参加者（討論者）は自由に発言できますし、それ以外の参加者であるテーブルの周囲の聴衆（オブザーバー）も議論に参加することも可能です。

【会場のレイアウト】

本大会では会場設営の都合上、円卓ではなくテーブルをロの字（四角）に配置し、椅子を 10～15 脚程度準備します。話題提供者（発表者・オーガナイザー）も参加者もともに着席します。参加希望者が多い場合は、周りのオブザーバー用の席をご利用いただきます。

ラウンドテーブル・ディスカッション会場イメージ



【セッションの時間】

1 つのセッションの時間は 60 分です。テーマによりセッションを 2 つ組み合わせた 120 分のセッションも可能です。

【セッションの運営について】

1. ラウンドテーブル・ディスカッションの参加者は、以下で構成されます。
   「オーガナイザー」…セッションの企画者
   「司会者」…話題提供者と討議の開始と進行を支える参加者
   「発表者」…セッションにおける報告者
   「討論者」…テーブルを囲んで討論する参加者
   「オブザーバー」…テーブルの周囲の聴衆
   （注）「参加者」は上記の全員、「話題提供者」は「オーガナイザー」と「発表者」の両方を指します。
2. まずは話題提供者が、研究の概要と論点についての説明を行ってください。セッションの時間の半分以上を討論の時間に充てるため、この説明が長くなりすぎないよう気をつけてください。
3. 次に討論者全員が、ショートコメントをまじえた自己紹介を行ってください。
4. その後は話題提供者の発表に即した流れに沿いながら、討論者などからのコメントを交え、参加者全員で意見交換を進めてください。意見が活発に出始め、論点が具体化したらその流れに任せてください。
5. 司会者は第一の参加者として発言者を助け、ラウンドテーブルを囲む全員が交流できるよう、話題提供者と討議の開始と進行を支えてください。議論のための時間（セッションの半分以上）を確保するだけでなく、参加者に対し発言を促すようなことも状況に応じて行ってください。ただし、研究報告の主体は話題提供者であり、討議の主体は話題提供者と参加者です。司会者が進行を気に使わずとも、両者の発言が順調に進み始めたら、司会者は、討議については自然の成り行きに任せてください。なお、司会者は、全体の意見をまとめたり、結論づけたりすることに責任を負う必要はありません。一参加者として、意見の交流を楽しんでください。また、討論者や他の参加者と協力し、時間どおりの開始と終了を目指して、時間の管理と進行をお願いします。

※話題提供者はテーマについて議論できるような発表用の資料（プレゼン用ファイル、配付資料等）をご準備ください。補足資料がある場合は 30 部程度を目安として配布資料をご用意ください。発表には液晶プロジェクタ（VGA 方式）が利用できます。PC はご自身のものをご用意し、セッション開始前に接続テストを済ませてください。

【オブザーバーの方へ】

ラウンドテーブル・ディスカッションでは、討議に加わらず、周囲で見学をするだけでも構いません。しかし、ご自身の意見を一言述べていただくだけでも研究の交流が生まれますので、可能な限りテーブルに着席し、討議に参加してください。一人でも多くの方に議論に参加していただければ、意見交換も盛り上がると思います。積極的なご参加をお願いいたします。

チュートリアルセミナー

日　　時: 2018 年 9 月 3 日(月)
　　テーマ A:14 時 15 分～17 時 15 分　テーマ B:17 時 30 分～20 時 30 分

テーマ A: はじめての継続時間分析と生存時間分析　人文社会科学やマーケティングへの応用
講　　師: 猪狩良介先生(法政大学経営学部)
場　　所: 519
概　　要:

イベントが発生するまでの時間を解析する統計手法は「継続時間分析」または「生存時間分析」と呼ばれており、医学・薬学などの分野のみならず、人文社会科学分野でも応用範囲は広い。しかし実際には「右打ち切り」「左切断」など「継続時間分析」に特有の概念が無視されることで、誤った分析が行われることも多い。本セミナーでは、継続時間分析/生存時間分析の入門的な内容を紹介する。

具体的には、Cox ハザードモデルなどの比例ハザードモデルを中心に、人文社会科学や、特にマーケティングへの応用事例を紹介する。また、統計ソフト R を利用した実行例も紹介する。

テーマ B: ベイズ推論による機械学習入門　応用モデルの構築法を中心に
講　　師: 須山敦志先生(㈱アクセンチュア)
場　　所: 517
概　　要:

ベイズ推論による機械学習入門 (KS 情報科学専門書) http://www.kspub.co.jp/book/detail/1538320.html の特に 4 章と 5 章、混合モデル, 次元削減、隠れマルコフモデル、トピックモデル、テンソル分解、ニューラルネットワークなどの応用モデルと近似推論(変分ベイズ, MCMC)を中心に、実際のプログラムコードにも即しながら解説いただく。

プログラムコードは https://github.com/sammy-suyama/BayesBook を参照されたい。

懇親会

日　　時: 2018 年 9 月 5 日(水)18:20～21:00
場　　所: 南校舎 4 階カフェテリア

第 46 回大会シンポジウム

第 46 回大会では以下のとおり大会シンポジウムを実施します。

日　　時: 2018 年 9 月 5 日(水)14:10～15:40
会　　場: 慶応義塾大学　西校舎ホール

タイトル: 行動経済学と行動計量学
司会・企画者: 星野崇宏(慶應義塾大学教授/理研 AIP チームリーダー:日本行動計量学会理事/行動経済学会常任理事)
講演者:
依田高典(京都大学教授:行動経済学会副会長)
「行動経済学とフィールド実験の邂逅:けいはんな学研都市の節電実験を中心に」
高橋泰城(北海道大学准教授:行動経済学会理事)
「神経経済学・量子意思決定論による行動分析の展開」
竹村和久(早稲田大学教授:日本行動計量学会理事/行動経済学会理事)
「心理学と行動計量学・行動経済学の関係について」

討論者:
大垣昌夫(慶應義塾大学教授:行動経済学会常任理事/前会長)
繁桝算男(慶應義塾大学訪問教授/東京大学名誉教授:日本行動計量学会理事・前理事長)
星野崇宏(慶應義塾大学教授/理研 AIP チームリーダー:日本行動計量学会理事/行動経済学会常任理事)

概　　要:
昨年、行動経済学者リチャード・セイラーがノーベル経済学賞を受賞し、また近年では経済学のみならず医学や公衆衛生での行動変容、マーケティングなど様々な分野で行動経済学の知見を利用した研究が行われていることからも、当該分野は非常に注目を浴びているといってよい。
さらに欧米各国のみならず日本の政策においても行動経済学の知見を利用したナッジが利用されるまでになってきた。そもそもセイラーが師事したトベルスキーやカーネマンは心理学者であり、彼らを中心とするグループが行った一連の意思決定論に関連する研究が経済学や経営学に応用されたものが行動経済学である。その点で、本学会は国内の意思決定研究やその応用研究という点で行動経済学研究を牽引してきたといってよい。
本大会シンポジウムでは、本学会と行動経済学の関連や歴史を踏まえながら、行動経済学会の主要メンバーの数名をお呼びし、ご発表を頂きながら、改めて社会科学のみならず医学や企業実務に大きな影響を与えつつある行動経済学と行動計量学の関係について理解を深めたい。

特別講演「柳井レクチャー」

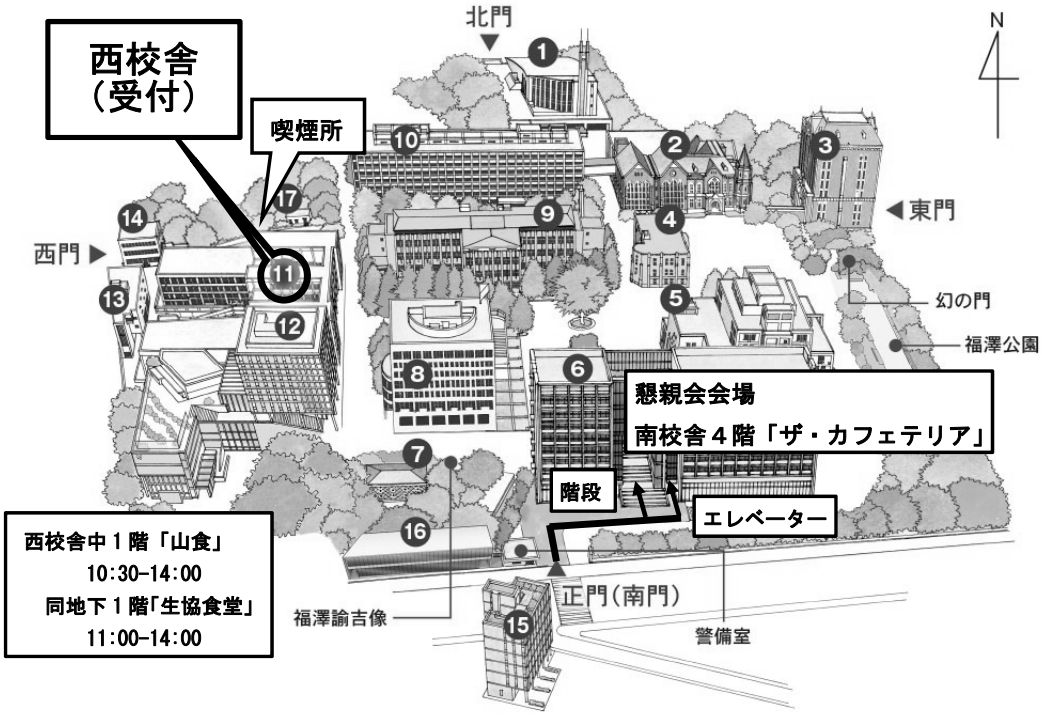
第 46 回大会では以下のように特別講演「柳井レクチャー」を実施します。柳井レクチャーは、2013 年に逝去された故柳井晴夫先生の、行動計量学に関するご業績および学会へのご貢献を顕彰するため 2014 年 11 月 10 日開催の理事会にて創設が決定されました。柳井レクチャーでは、故柳井晴夫先生のご業績に鑑み行動科学における計量的方法の理論と応用について、講演者を毎年 1 名選出し、大会時に 1 時間程度の特別講演を行っていただきます。

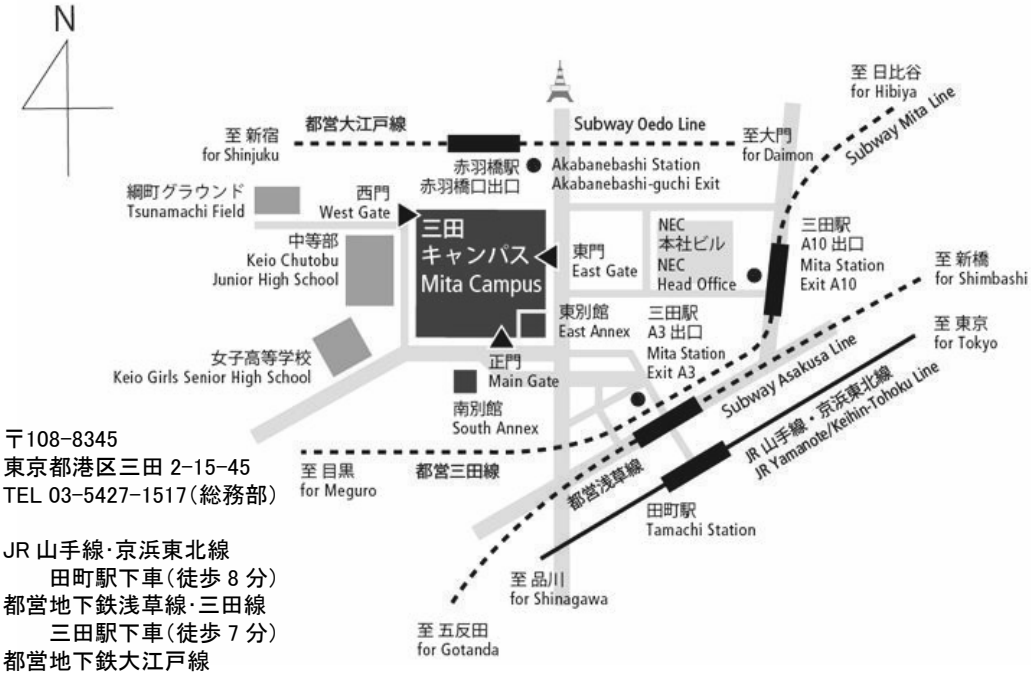
日　　時: 2018 年 9 月 5 日(水)15:50～16:50
会　　場: 慶応義塾大学　西校舎ホール

タイトル: 多次元尺度構成法　―対称関係から非対称関係へ―
講 演 者: 岡太彬訓(立教大学名誉教授)
司 会 者: 吉野諒三(統計数理研究所))

概　　要:
多次元尺度構成法は心理学にその起源があり、当初は(非)類似度判断を表現する心理学のモデルであった。多次元尺度構成法は主として多次元空間に埋め込まれた点により対象を表現し、点間距離を(非)類似度に対応させるため、対象間の非対称関係を表現するのは難しかった。他方、(非)類似度判断の非対称関係に対する心理学的考察が試みられ、さらに、非対称(非)類似度に対応する多次元尺度構成法(非対称多次元尺度構成法)が何種類か導入された。また、心理学以外での非対称(非)類似度関係にも目が向けられ、非対称多次元尺度構成法を含む多次元尺度構成法は、心理学に限らずさまざまな分野のデータに潜む情報を幾何学的に表現して視覚に訴えて情報を提供するためのデータ分析の方法と見做されるようになった。非対称多次元尺度構成法には多様なモデルや方法が導入されたが、これらの中で最も基本的だと考えられる単相 2 元(非)類似度を分析するための distance-radius モデル、および、特異値分解を用いたモデルを用いた方法を概観し、その課題を考え、現在行なっている取り組みの幾つかを述べる。

慶應義塾大学三田キャンパスマップ



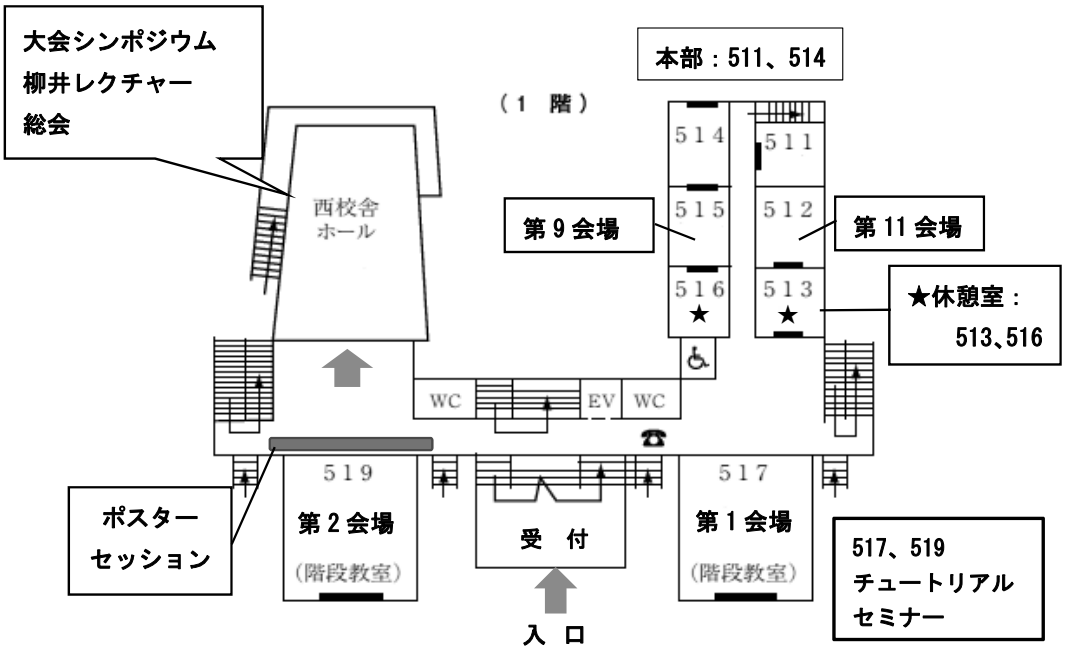


〒108-8345
東京都港区三田 2-15-45
TEL 03-5427-1517（総務部）

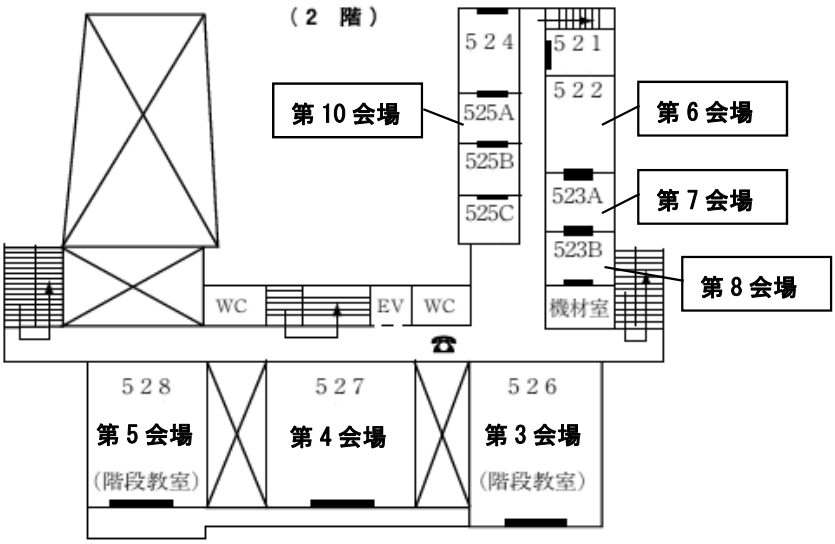
JR 山手線･京浜東北線
　　田町駅下車（徒歩 8 分）
都営地下鉄浅草線･三田線
　　三田駅下車（徒歩 7 分）
都営地下鉄大江戸線
　　赤羽橋駅下車（徒歩 8 分）

会場見取り図

西校舎　平面図（１階）



西校舎　平面図（２階）



*本部:511・514 休憩室 513・516

プログラム

9月3日(月)

14:15 ～ 17:15	チュートリアルセミナー	
	テーマA	
	タイトル:	はじめての継続時間分析と生存時間分析:人文社会科学とビジネスへの応用
	講師:	猪狩良介(法政大学経営学部)
	会場:	519
17:30 ～ 20:30	テーマB	
	タイトル:	ベイズ推論による機械学習入門:いくつかの応用モデルを中心に
	講師:	須山敦志(㈱アクセンチュア)
	会場:	517

9月4日(火)

	第1会場 517	第2会場 519	第3会場 526	第4会場 527	第5会場 528
10:00 ～ 12:00	特別セッション SB1 統計学・社会調査の再考1	特別セッション SB2 脳科学とデータサイエンス	特別セッション SB3 非対称データの分析—理論と応用—	一般 テキストデータの分析1	一般 項目反応理論
12:00 ～ 13:00	昼食				
13:00 ～ 15:00	特別セッション SB4 統計学・社会調査の再考2	特別セッション SB5 データサイエンスにおけるスパースモデリングの拡がり	特別セッション SB6 人工知能はどのように社会を変えるか—社会関係資本の視点からの検討	一般 テキストデータの分析2	一般 マーケティング

	第1会場 517	第6会場 522	第7会場 523-A	第8会場 523-B	第9会場 515	第10会場 525-A	第11会場 512
	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル
15:20 ～ 17:20	SB9 Making Statistics Great Again! ～再興する統計学～	SB7 多変量解析におけるスパース推定	SB8 リーディングスキルテスト開発における統計的検討	SB10 データサイエンスの展開と今後の動向			
15:20 ～ 16:20					SB11 AIはどこまで人間の仕事を代替可能か？～Frey and Osborne (2013)の批判的検討	SB12 数量化理論のグラフ法CGSスケーリングの真相	SB13 心理学におけるベイズ統計モデリング
16:30 ～ 17:30					SB14 マーケティングリサーチと行動経済学:いかに調査に生じえるバイアスを考慮するか	SB15 学会の新しい機能と役割とは—学会の過去、現在、未来を考える—	

9月5日(水)									
	第1会場 517	第2会場 519	第3会場 526	第4会場 527	第5会場 528		第9会場 515		
9:30～ 11:30	特別セッション	特別セッション	一般セッション	一般セッション	一般セッション		ラウンドテーブル		
	SB16 新しいデータ取得環境での解析と行動メカニズムの理解および介入に向けて	SB17 社会に広がる因果推論の世界	調査データ分析	政治経済	心理統計		SB18 自治体が実施する調査 ー課題から改善を考えるー		
11:30 ～ 12:30	昼食								
12:30 ～ 14:00	ポスター発表								
	会場: 西校舎ホール前から中央階段								
14:10 ～ 15:40	大会シンポジウム タイトル: 行動経済学と行動計量学 登壇者: 依田高典(京都大学), 大垣昌夫(慶應義塾大学), 繁桝算男(慶應義塾大学・東京大学), 高橋泰城(北海道大学)、竹村和久(早稲田大学), 星野崇宏(慶應義塾大学・理研AIP) 司会者: 星野崇宏(慶應義塾大学・理研AIP) 会場: 西校舎ホール								
15:50 ～ 16:50	柳井レクチャー 講演タイトル: 多次元尺度構成法ー対称関係から非対称関係へー Multidimensional Scaling: From Symmetric Relationships to Asymmetric Relationships 講演者: 岡太彬訓(立教大学名誉教授) 司会者: 吉野諒三(統計数理研究所) 会場: 西校舎ホール								
17:00 ～ 18:00	総会 会場:西校舎ホール								
18:20 ～ 21:00	懇親会 会場: 南校舎カフェテリア								

9月6日(木)									
	第1会場 517	第2会場 519	第3会場 526	第4会場 527			第9会場 515		
9:30～ 11:30	特別セッション	特別セッション	一般	一般			ラウンドテーブル		
	SB19 スマートフォン時代のインターネット調査の品質向上のための取り組み	SB20 社会調査データ解析 ――「データの科学」の方法論と実践	心理・医療	子どもを対象とした計量分析			SB21 調査手法の課題 ー新しい展開を探るー		
11:30 ～ 12:30	昼食								
12:30 ～ 14:30	特別セッション	特別セッション	一般	一般			ラウンドテーブル		
	SB22 データ分析によるマーケティング・イノベーション	SB23 Web調査導入に伴う発想の転換	統計理論	計量文献学			SB24 「計量政治学」で何を「はかる」か?		

9 月 4 日（火）

10:00-12:00

9 月 4 日（火）　特別セッション（120 分）【第 1 会場 517】
統計学・社会調査の再考1

オーガナイザー：猪口孝（桜美林大学アジア文化研究所），松原望（聖学院大学），
芝井清久（統計数理研究所），森本栄一（（株）ビデオリサーチ統合調査業務局
数理統計部）
オーガナイザー，司会者：松本渉（関西大学総合情報学部）

SB1-1

国際ギャラップ調査－福島原発事故後の世界世論
○猪口 孝（桜美林大学 アジア文化研究所），○松原 望（東京大学）

SB1-2

国際ギャラップ調査―アメリカ大統領選挙の世界世論
あなたの国でアメリカは「アメリカ第一」か、「世界運営」を優先しているか
○猪口 孝（桜美林大学 アジア文化研究所），○松原 望（東京大学）

SB1-3

選挙予測の失敗と調査法の課題
アメリカ大統領選挙や日本の国政選挙などの比較
○松田 映二（埼玉大学社会調査研究センター）

SB1-4

フィールド調査と地域文化・国際文化
サーベイデータの文脈依存性
○金井 雅之（専修大学 人間科学部 社会学科）

9 月 4 日（火）　特別セッション（120 分）【第 2 会場 519】
脳科学とデータサイエンス

オーガナイザー：中山実（東京工業大学　工学院）
討論者：繁桝算男（慶応義塾大学）

SB2-1

fMRI による意味処理の神経基盤の解明 --シェアされたデータのメタ分析的視点から
○赤間 啓之（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院/生命理工学院）

SB2-2

認知科学でのモデル検証に fMRI を使うひとつの方法
○寺尾 敦（青山学院大学社会情報学部）

SB2-3

fMRI から知る機能的脳結合と認知機能

○今水 寛（東京大学大学院人文社会系研究科）

9 月 4 日（火）　特別セッション（120 分）【第 3 会場 526】
非対称データの分析ー理論と応用-

オーガナイザー：今泉忠（多摩大学経営情報学部）

SB3-1

An elementary theory of a dynamic weighted digraph

○千野 直仁（愛知学院大学心身科学部）

SB3-2

単相 2 元非対称多次元尺度構成法の比較と検討 -距離モデルの場合-

○岡太 彬訓（立教大学），今泉 忠（多摩大学）

SB3-3

対角要素に依存しない slide-vector model の提案

○今泉 忠（多摩大学経営情報学部），岡太 彬訓（立教大学）

SB3-4

2 相 3 元 Dominance 点モデルを用いた Functional MDS について

○土田 潤（東京理科大学工学部情報工学科），宿久 洋（同志社大学文化情報学部）

9 月 4 日（火）　一般セッション（120 分）【第 4 会場 527】
テキストデータの分析 1

座長：中村永友（札幌学院大学）

CA1-1　10:00～10:20

太宰前期の文体における芥川作品からの影響の有無について

金 明哲（同志社大学文化情報学部），○尾城 奈緒子（同志社大学大学院文化情報学研究科）

CA1-2　10:20～10:40

森鴎外作品における文体的特徴についての計量分析

○土山 玄（一橋大学）

CA1-3　10:40～11:00

絵画作品における色彩的特徴の計量的比較分析

○行村 隆平（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

CA1-4　11:00～11:20

判別分析による宇野浩二と同時代作家の比較分析

○劉 雪琴（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

CA1-5　11:20～11:40

特徴選択方法の性能比較分析

○鄭 弯弯（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

CA1-6　11:40～12:00

自由想起された中国語における感情語の計量分析

○余語 真夫（同志社大学心理学部），劉 雪琴（同志社大学文化情報学研究科），李 広微（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

9 月 4 日（火）　一般セッション（120 分）【第 5 会場 528】
項目反応理論

座長：岡田謙介（東京大学）

CA2-1　10:00～10:20

係留ビネット法に適した多次元名義反応モデルの提案

○北條 大樹（東京大学,日本学術振興会），岡田 謙介（東京大学）

CA2-2　10:20～10:40

順位データに対応した Linear Ballistic Accumulator モデルの拡張

○分寺 杏介（東京大学大学院　教育学研究科）

CA2-3　10:40～11:00

レビュアー特性パラメータを付与した多次元項目反応モデルの提案

○八木 嵩大（電気通信大学/情報理工学部），宇都 雅輝（電気通信大学）

CA2-4　11:00～11:20

学習者の能力の時系列変化を考慮した項目反応モデル

○堤 瑛美子（電気通信大学情報理工学研究科），宇都 雅輝（電気通信大学），植野 真臣（電気通信大学）

CA2-5　11:20～11:40

大規模教育調査に適した項目反応モデルは何か

母集団モデルを組み込んだ1PL、2PL、3PL モデルの比較

○袰岩 晶（国立教育政策研究所），篠原 真子（国立教育政策研究所）

CA2-6　11:40～12:00

項目反応理論の応用による消費者異質性と商品異質性の同時分析

○石橋 敬介（流通経済研究所／筑波大学大学院ビジネス科学研究科），伴 正隆（筑波大学大学院ビジネス科学研究科），尾碕 幸謙（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）

13:00-15:00

9 月 4 日（火）　特別セッション（120 分）【第 1 会場 517】
統計学・社会調査の再考2

オーガナイザー：猪口孝（桜美林大学アジア文化研究所），松原望（聖学院大学），
松本渉（関西大学総合情報学部），芝井清久（統計数理研究所）
オーガナイザー，司会者：森本栄一（（株）ビデオリサーチ統合調査業務局数理統計部）

SB4-1

シークエンス分析によるメディア利用パターンの類型化
―日記式行動データへの Social Sequence Analysis の適用―
○渡辺 庸人（株式会社 ビデオリサーチ），奥 律哉（株式会社 電通），美和 晃（株式会社 電通），森本 栄一（株式会社 ビデオリサーチ），宮田 正晃（株式会社 ビデオリサーチ），修 聡（株式会社 ビデオリサーチ）

SB4-2

新旧大国間戦争と国力に関する予備的考察
○西舘 崇（共愛学園前橋国際大学国際社会学部）

SB4-3

戦争不安をもたらす要因と Audience Cost
国際比較調査データによる戦争に対する国民意識の比較分析
○芝井 清久（統計数理研究所）

SB4-4

人と組織に対する信頼についての再検討
市民社会調査の結果から
○松本 渉（関西大学総合情報学部）

SB4-5

大学受験情報の品質保証
○栗原 直以（株式会社シンクアップ），松原 望（東京大学名誉教授），森本 栄一（(株)ビデオリサーチ　数理統計部）

9 月 4 日（火）　特別セッション（120 分）【第 2 会場 519】
データサイエンスにおけるスパースモデリングの拡がり

オーガナイザー，司会者：川野秀一（電気通信大学　大学院情報理工学研究科　情報・ネットワーク工学専攻）

SB5-1

テンソルデータへの Joint Graphical Lasso
○宇野 光平（大阪大学）

SB5-2

セルワイズ外れ値に頑健なスパースグラフィカルモデリング

○片山 翔太（東京工業大学工学院）

SB5-3

バイオインフォマティクスにおけるスパースモデリング

○島村 徹平（名古屋大学大学院医学系研究科）

SB5-4

Selective Inference に基づく多変量系列の変化点検出

○梅津 佑太（名古屋工業大学）

SB5-5

因子分析における単純構造推定のための正則化法とその応用

○廣瀬 慧（九州大学　マス・ファア・インダストリ研究所），寺田 吉壱（大阪大学）

9 月 4 日（火）　特別セッション（120 分）【第 3 会場 526】
人工知能はどのように社会を変えるか―社会関係資本の視点からの検討

オーガナイザー，司会者：稲葉陽二（日本大学法学部）

SB6-1

人工知能はどのように社会を変えるか―社会関係資本の視点からの検討

社会関係資本の構成要素の因子分析と時間調査からの考察

○稲葉 陽二（日本大学法学部）

SB6-2

人工知能はどのように社会を変えるか―社会学の視点からの検討

人工知能を備えたロボットは家族の一員になれるか？

○佐藤 嘉倫（東北大学大学院文学研究科）

SB6-3

人工知能はどのように社会を変えるか―教育の視点からの検討

○露口 健司（愛媛大学大学院）

SB6-4

人工知能はどのように社会を変えるか―公衆衛生学の視点からの検討

○藤原 佳典（東京都健康長寿医療センター研究所）

SB6-5

人工知能はどのように社会を変えるか―経済学の視点からの検討

○立福 家徳（日本大学法学部）

9 月 4 日（火）　一般セッション（120 分）【第 4 会場 527】
テキストデータの分析 2

座長：中村永友（札幌学院大学）

CA3-1　13:00～13:20
テキストマイニングによる特徴語と学生の理解度の関連性について
○大浦 洋子（九州情報大学　経営情報学部），南 俊朗（九州情報大学　名誉教授）

CA3-2　13:20～13:40
因子分析によるテキストデータの内容分類
○井部 誠久（株式会社アスクレップ　事業推進統括部　RWD サイエンス室）

CA3-3　13:40～14:00
文脈情報を用いた論理構造推定手法
○木下 涼（電気通信大学情報理工学研究科），宇都 雅輝（電気通信大学），植野 真臣（電気通信大学）

CA3-4　14:00～14:20
不動産検討行動を促進するコンテンツの分類
形態素解析・クラスター分析を用いた記事分類と不動産検討行動の関係
○小川 未来（株式会社リクルート），新井 優太（リクルート住まいカンパニー）

CA3-5　14:20～14:40
日本語のブログのおける形容詞の書き込み頻度時系列の確率的特性とイベントのインパクト計量への応用
○渡邊 隼史（統計数理研究所）

CA3-6　14:40～15:00
オンラインコミュニティリサーチにおける情報伝搬に関する研究
○芳賀 麻誉美（大阪経済大学）

9 月 4 日（火）　一般セッション（120 分）【第 5 会場 528】
マーケティング

座長：竹内真登（東北学院大学）

CA4-1　13:00～13:20
健康ヨーグルト購買者と非購買者の購買プロセスの比較
○山田 紗弥（東海大学大学院情報通信学研究科情報通信学専攻），朝日 弓未（東海大学 情報通信学部 経営システム工学科）

CA4-2　13:20～13:40
商品ポイントと価格販促が参照価格と長期的購買に与える影響について
○打出 紘基（慶應義塾大学），中川 宏道（名城大学），星野 崇宏（慶應義塾大学・理研 AIP）

CA4-3　13:40～14:00

初回利用までの期間を用いた顧客管理指標の提案

○上田 雅夫（早稲田大学大学院　創造理工学研究科）

CA4-4　14:00～14:20

生活者の Web 利用傾向差異によるテレビ視聴番組構造の比較

篠原 正裕（(株)インテージ 開発本部 先端技術部），○坪田 真延（(株)インテージ 開発本部 先端技術部）

CA4-5　14:20～14:40

食についての感性モデルに向けて

○櫻井 瑛一（産総研），本村 陽一（産総研），安松 健（オージス総研），道田 奈々江（広島大学）

CA4-6　14:40～15:00

地域広域芸術祭におけるステークホルダーへの影響

―「瀬戸内国際芸術祭」訪問者事前調査を事例として―

○山本 暁美（東京大学大学院学際情報学府）

15:20-17:20

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（120 分）【第 1 会場 517】
Making Statistics Great Again! ～再興する統計学～

オーガナイザー，司会者，討論者：猪口孝（東京大学名誉教授・桜美林大学特別招聘教授）

オーガナイザー，討論者：松原望（東京大学名誉教授）

オーガナイザー：松本渉（関西大学総合情報学部教授），芝井清久（統計数理研究所特任助教）
森本栄一（(株)ビデオリサーチ　数理統計部）

討論者：江崎光男（名古屋大学名誉教授），
鈴木督久（株式会社日経リサーチ取締役常務執行役員）
土田尚弘（株式会社日本リサーチセンター），徳田安春（群星沖縄臨床研修センター長）

SB9-1

Making Statistics Great Again! ～再興する統計学～

○猪口 孝（桜美林大学 アジア文化研究所・東京大学），松原 望（東京大学），江崎 光男（名古屋大学），鈴木 督久（日経リサーチ），徳田 安春（群星沖縄臨床研修センター），土田 尚弘（日本リサーチセンター）

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（120 分）【第 6 会場 522】
多変量解析におけるスパース推定

オーガナイザー：鈴木譲（大阪大学 大学院基礎工学研究科）

SB7-1

スパース推定の概要をわかりやすく
○鈴木 譲（大阪大学 大学院基礎工学研究科）

SB7-2

多変量解析におけるスパース推定(1) スパース主成分分析，スパース正準相関分析
○五條 喜仁（大阪大学　大学院基礎工学研究科），鈴木 譲（大阪大学　大学院基礎工学研究科）

SB7-3

多変量解析におけるスパース推定(2) 判別分析とクラスタリング
○吉岡 凜太郎（大阪大学院基礎工学研究科システム創成専攻）

SB7-4

多変量解析におけるスパース推定(3) グラフィックモデル
○張 秉元（大阪大学　大学院基礎工学研究科），鈴木 譲（大阪大学　大学院基礎工学研究科）

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（120 分）【第 7 会場 523-A】
リーディングスキルテスト開発における統計的検討

オーガナイザー，司会者：尾碕幸謙（筑波大学大学院　ビジネス科学研究科）

SB8-1

複数概念を測定するための適応型テストの検討
○尾碕 幸謙（筑波大学大学院　ビジネス科学研究科）

SB8-2

出題領域と解答時間を考慮した項目選択アルゴリズムの性能評価
登藤 直弥（筑波大学），○分寺 杏介（東京大学大学院　教育学研究科），尾崎 幸謙（筑波大学）

SB8-3

当て推量の存在するデータの 1 パラメタ・ロジスティックモデルならびに 2 パラメタ・ロジスティックモデルによる解析
○登藤 直弥（筑波大学人間系）

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（120 分）【第 8 会場 523-B】
データサイエンスの展開と今後の動向

オーガナイザー, 司会者：丸山久美子（聖学院大学）
オーガナイザー, 討論者：木下冨雄（京都大学）

SB10-1

文化多様体解析（CULMAN)の展開
世界の人々の価値観の地図
○吉野 諒三（統計数理研究所データ科学研究系）

SB10-2

社会現象の調査理論としてのファセット・セオリー
「数量化理論」との比較の視座から
○真鍋 一史（青山学院大学　地球社会共生学部）

SB10-3

考え方の筋道の異質性を探る
－数量化理論、潜在構造分析、ベイズモデリング－
○木村 邦博（東北大学大学院文学研究科）

15:20-16:20

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（60 分）【第 9 会場 515】
AI はどこまで人間の仕事を代替可能か？～Frey and Osborne (2013)の批判的検討

オーガナイザー, 司会者, 討論者：上野雄史（静岡県立大学経営情報学部),
星野崇宏（慶應義塾大学), 加藤諒（神戸大学）

SB11-1

AIはどこまで人間の仕事を代替可能か？
～Frey and Osborne (2013)の批判的検討
○上野 雄史（静岡県立大学経営情報学部）, ○星野 崇宏（慶應義塾大学・理研 AIP）,
○加藤 諒（神戸大学）

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（60 分）【第 10 会場 525-A】
数量化理論のグラフ法 CGS スケーリングの真相

オーガナイザー，討論者：西里静彦（OISE/UT Univ.of Toronto）
司会者：馬場康雅（統計数理研究所）

SB12-1

数量化理論のグラフ法 CGS スケーリングの真相
○西里 静彦（University of Toronto）

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（60 分）【第 11 会場 512】
心理学におけるベイズ統計モデリング

オーガナイザー，司会者，討論者：岡田謙介（東京大学）
オーガナイザー，討論者：清水裕士（関西学院大学）
討論者：武藤拓之（大阪大学・日本学術振興会）

SB13-1

社会心理学におけるベイズ統計モデリング
多次元展開法を用いた社会意識の可視化
○清水 裕士（関西学院大学社会学部）

SB13-2

ベイズ統計モデリングは実験心理学に何をもたらすか
○武藤 拓之（大阪大学大学院人間科学研究科／日本学術振興会）

16:30-17:30

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（60 分）【第 9 会場 515】
マーケティングリサーチと行動経済学：いかに調査に生じえるバイアスを考慮するか

オーガナイザー，司会者：竹内真登（東北学院大学経営学部経営学科）
オーガナイザー，討論者：星野崇宏（慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター）
討論者：小野滋（株式会社インサイト・ファクトリー）

SB14-1

行動ログと調査回答の乖離及び行動経済学に基づく説明可能性
○竹内 真登（東北学院大学経営学部）

9 月 4 日（火）　ラウンドテーブルディスカッション（60 分）【第 10 会場 525-A】
学会の新しい機能と役割とは―学会の過去、現在、未来を考える―

オーガナイザー，司会者：芳賀麻誉美（大阪経済大学）

SB15-1

企業内研究者を取り巻く現状と課題
生涯研究者であり続けるために
○小代 禎彦（TOTO株式会社　商品安全センター）

SB15-2

企業における産学連携の実際と学会に期待する役割
○上村 崇（株式会社 ALBERT）

9 月 5 日（水）

9:30-11:30

9 月 5 日（水）　特別セッション（120 分）【第 1 会場 517】
新しいデータ取得環境での解析と行動メカニズムの理解および介入に向けて

オーガナイザー：星野崇宏（慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター）
司会者，討論者：猪狩良介（法政大学）

SB16-1

位置情報と IDPOS データを用いた購買行動の理解
○加藤 諒（神戸大学経済経営研究所），星野 崇宏（慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター）

SB16-2

SCM による因果効果の階層モデルの複数店舗データへの適用
○齊藤 勇樹（慶應義塾大学大学院経済学研究科），星野 崇宏（慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター），中野 暁（株式会社インテージ）

SB16-3

メディアの閲覧内容を利用した CRM モデリング
○藤本 凌太朗（慶應義塾大学経済学部），網頭 翔真（慶應義塾大学経済学部），星野 崇宏（慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター），丹羽 亮人（株式会社日本経済新聞社）

SB16-4

飲食店の大規模予約データを利用した需要予測
○柳 博俊（慶應義塾大学大学院経済学研究科），藤本 凌太郎（慶應義塾大学経済学部），網頭 翔真（慶應義塾大学），萩原 静厳（トレタデータサイエンス研究所），星野 崇宏（慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター）

SB16-5

不動産物件の価格付けに関する解析
○井上 樹芳（三菱 UFJ 信託銀行），○堀 基樹（三菱 UFJ 信託銀行），宮澤 孝慈（慶應義塾大学経済学部），長谷川 泰大（慶應義塾大学経済学部），星野 崇宏（慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター）

SB16-6

全数系データの調査設計
増え続けるビッグデータにいかに価値を与えていくか
○中野 暁（株式会社インテージ），李 相吉（株式会社インテージ）

9 月 5 日(水)　特別セッション(120 分)【第 2 会場 519】
社会に広がる因果推論の世界

オーガナイザー, 司会者:黒木学(横浜国立大学大学院　工学研究院)

SB17-1

因果推論を支える存在論と認識論

○大塚 淳(京都大学文学研究科)

SB17-2

因果の量的な／質的な議論のための"GUI":バックドア基準の入門とその使用例

○林 岳彦(国立環境研究所環境リスク・健康研究センター)

SB17-3

治療方針の因果効果と臨床試験

○篠崎 智大(東京大学大学院医学系研究科)

SB17-4

因果推論からみた公平性配慮問題について

○黒木 学(横浜国立大学大学院　工学研究院), 新垣 隆生(横浜国立大学大学院理工学府)

9 月 5 日(水)　一般セッション(120 分)【第 3 会場 526】
調査データ分析

座長:角田弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

CA5-1　9:30～9:50

相互評価における評価プロセスデータを用いた評価行動分析

Web 調査におけるパラデータを用いた回答行動分析と比較して

○堀越 泉(上智大学大学院　理工学研究科), 田村 恭久(上智大学 理工学部)

CA5-2　9:50～10:10

面接試験における直感評定の総合的検討と妥当性評価

○森 一将(文教大学　経営学部), 橋本 貴充(帝京大学　文学部), 大江 朋子(帝京大学　文学部)

CA5-3　10:10～10:30

イメージデータのグラフィカル表現法の提案

○大森 拓哉(多摩大学経営情報学部)

CA5-4　10:30～10:50

「日本人の国民性調査」の二次分析の試み

宗教意識に関する質問諸項目を中心として

○真鍋 一史(青山学院大学　地球社会共生学部)

CA5-5　10:50～11:10

テクノ・ネット依存症傾向が及ぼす新型うつ傾向へのレジリエンス強化による予防策

○坂部 創一（創価大学理工学部），山崎 秀夫（常葉大学健康プロデュース学部）

CA5-6　11:10～11:30

不適切回答者抽出のための統計手法の開発

○尾碕 幸謙（筑波大学大学院　ビジネス科学研究科），鈴木 貴士（筑波大学）

9 月 5 日（水）　一般セッション（120 分）【第 4 会場 527】
政治経済

座長：岡田陽介（拓殖大学）

CA6-1　9:30～9:50

Do lifecycle events matter for voter turnout?: Evidence from British Cohort Panel Survey

増田 一八（一橋大学　経済研究所），○岡部 智人（一橋大学　経済研究所）

CA6-2　9:50～10:10

選挙管理における ICT 利用を阻むもの

全国市区選管事務局調査 2018 のデータから

○河村 和徳（東北大学大学院 情報科学研究科），茨木 瞬（パイプド総研・横浜市立大学）

CA6-3　10:10～10:30

オートローンに対する概算回収率モデルの提案

○鈴木 友季也（東海大学情報通信学研究科情報通信学専攻），朝日 弓未（東海大学情報通信学部経営システム工学科）

CA6-4　10:30～10:50

台湾における労働組合の実証調査分析

○曾 彦翔（同志社大学文化情報学研究科），鄭 躍軍（同志社大学文化情報学研究科）

CA6-5　10:50～11:10

AI はどのように社会をかえるのか

社会関係資本と格差の視点からの検討

○稲葉 陽二（日本大学法学部）

CA6-6　11:10～11:30

インターネットテレビサービス AbemaTV におけるニュースの「チラ見」がニュース視聴の動機に与える影響

○高野 雅典（株式会社サイバーエージェント），森下 壮一郎（株式会社サイバーエージェント），小川 祐樹（立命館大学）

9 月 5 日(水)　一般セッション(120 分)【第 5 会場 528】
心理統計

座長:清水裕士(関西学院大学)

CA7-1　9:30～9:50

On the Mathematical and Conceptual Relationship between Cross-Lagged Longitudinal Models

○宇佐美 慧(東京大学高大接続研究開発センター), Murayama Kou(University of Reading), Hamaker Ellen(Utrecht University)

CA7-2　9:50～10:10

多重対応分析におけるプロクラステス回転と bootstrap 法による信頼区間推定

○村上 隆(中京大学現代社会学部)

CA7-3　10:10～10:30

レイティングデータとテキスト情報を用いたライティング能力推定のための項目反応トピックモデル

○宇都 雅輝(電気通信大学)

CA7-4　10:30～10:50

因子分析におけるエントロピーに基づく因子効果評価
試験データ分析への応用

○江島 伸興(京都大学高大接続・入試センター)

CA7-5　10:50～11:10

WISC-IV データの知能の因子構造

○繁桝 算男(慶應義塾大学), 古野 公紀(帝京大学)

CA7-6　11:10～11:30

DINA モデルにおける変分ベイズ推論

○山口 一大(法政大学現代福祉学部, 特別研究員 PD), 岡田 謙介(東京大学)

9 月 5 日(水)　ラウンドテーブルディスカッション(120 分)【第 9 会場 515】
自治体が実施する調査　ー課題から改善を考えるー

オーガナイザー:松本渉(関西大学総合情報学部)

司会者, 討論者:吉村治正(奈良大学)

討論者:盛山和夫(東京大学名誉教授)

SB18-1

自治体が実施する調査法モデルの提示
郵送調査の高回収率達成後に WEB 調査との複合調査へ

○松田 映二(埼玉大学社会調査研究センター)

SB18-2

自治体と大学が連携して社会調査を実施するメリット
企画から集計・報告まで
○松本 渉（関西大学総合情報学部）

SB18-3

自治体職員を対象にした調査論講座の実践と課題
愛媛県での事例から
○小松 洋（松山大学人文学部）

12:30-13:30

9 月 5 日（水）　ポスター発表（60 分）【西校舎ホール前から中央階段】

座長：宇佐美慧（東京大学）

CA8-1-1　12:30～13:30

政治をめぐる世論・ムードに関する実数差分誤差修正メカニズム（Fractional Error Correction Mechanism）を用いた分析
○大村 華子（関西学院大学総合政策学部）

CA8-1-2　12:30～13:30

小学生までに受けた食育が現在の食習慣に及ぼす影響
当研究所「ヘルスケアに関する意識と行動についての調査」より（1）
○樋口 由起子（（株）明治安田生活福祉研究所），渡辺 直紀（（株）明治安田生活福祉研究所）

CA8-1-3　12:30～13:30

一対比較を用いた選好判断における刺激特性の影響
選択結果と眼球運動データによる検討
○森井 真広（慶應義塾大学論理と感性のグローバル研究センター），坂上 貴之（慶應義塾大学文学部），増田 真也（慶應義塾大学看護医療学部）

CA8-1-4　12:30～13:30

順位評価と点数評価による評定値の比較
商品キャッチコピーの魅力度とイメージしやすさのデータから
○京屋 郁子（立命館大学　総合心理学部），尾田 政臣（立命館大学　文学部）

CA8-1-5　12:30～13:30

クリティカルシンキングの試験開発における妥当性
○若山 昇（帝京大学　法学部），宮澤 芳光（学芸大学），梶谷 真司（東京大学），宇都雅輝（電気通信大学），植野 真臣（電気通信大学）

CA8-1-6　　12:30～13:30

自然言語処理による課題探究型学習の評価要因の分析

○黒宮 寛之（東京大学大学院教育学研究科），日高 一郎（東京大学大学院教育学研究科），山本 義春（東京大学大学院教育学研究科）

CA8-1-7　　12:30～13:30

名札型情報通信機器を用いて回復期リハビリテーション病棟におけるコミュニケーション量を可視化する社会物理学的研究

チーム内対面時間と患者帰結との関係及び職種による対面時間の特徴

○出江 紳一（東北大学大学院医学系研究科肢体不自由学分野），李 志廣（東北大学大学院医学系研究科肢体不自由学分野）

13:00-14:00

9 月 5 日（水）　ポスター発表（60 分）【西校舎ホール前から中央階段】

座長：猪狩良介（法政大学）

CA8-2-1　　13:00～14:00

Case 1 Best-Worst Scaling 向け R パッケージ support.BWS の機能の拡張

○合崎 英男（北海道大学大学院農学研究院）

CA8-2-2　　13:00～14:00

地方への移住、移住者および地域住民への調査

○朴 堯星（統計数理研究所）

CA8-2-3　　13:00～14:00

主観確率の測定法の改善について

思考状態に着目して

○藤田 和也（東京大学），岡田 謙介（東京大学教育研究科），中尾 敬（広島大学教育研究科）

CA8-2-4　　13:00～14:00

Web 調査における回答完遂者と途中脱落者、及び他の調査の回答者との重複に関する検討

○増田 真也（慶應義塾大学看護医療学部），坂上 貴之（慶應義塾大学文学部），森井 真広（慶應義塾大学論理と感性のグローバル研究センター）

CA8-2-5　　13:00～14:00

探求型教授法の因果効果の検討

○菱山 完（東京大学大学院教育学研究科），岡田 謙介（東京大学大学院教育学研究科）

CA8-2-6　　13:00～14:00

健康情報への曝露頻度が1年後の運動習慣に及ぼす影響
当研究所「ヘルスケアに関する意識と行動についての調査」より(2)
○渡辺 直紀((株)明治安田生活福祉研究所), 樋口 由起子((株)明治安田生活福祉研究所)

14:10-15:40

9 月 5 日(水)　大会シンポジウム(90 分)【西校舎ホール】

「行動経済学と行動計量学」

登壇者:依田高典(京都大学), 大垣昌夫(慶應義塾大学),
繁桝算男(慶應義塾大学・東京大学), 高橋泰城(北海道大学),
竹村和久(早稲田大学), 星野崇宏(慶應義塾大学・理研 AIP)
司会者:星野崇宏(慶應義塾大学・理研 AIP)

15:50-16:50

9 月 5 日(水)　柳井レクチャー(60 分)【西校舎ホール】
柳井レクチャー

多次元尺度構成法 -対称関係から非対称関係へ-
Multidimensional Scaling: From Symmetric Relationships to Asymmetric Relationships

講演者:岡太彬訓(立教大学名誉教授)
司会者:吉野諒三(統計数理研究所)

17:00-18:00

9 月 5 日(水)　総会(60 分)　【西校舎ホール】

18:20-21:00

9 月 5 日(水)　懇親会(160 分)【南校舎カフェテリア】

9 月 6 日（木）

9:30-11:30

9 月 6 日（木）　特別セッション（120 分）【第 1 会場 517】
スマートフォン時代のインターネット調査の品質向上のための取り組み

オーガナイザー，司会者：村上智章（株式会社マクロミル）

SB19-1

JMRA における品質向上に向けた活動と調査品質ガイドラインの策定
○村上 智章（株式会社マクロミル）

SB19-2

モニター満足度調査からみたネットリサーチモニターの実態
○工藤 公久（GMO リサーチ株式会社）

SB19-3

インターネット調査における調査分割法の導入の可能性 ー調査品質向上の視点からー
○加藤 宏（（株）インテージ）

SB19-4

インターネット利用者の無作為抽出調査（RDIT）
調査票を短くシンプルにすることで可能になる調査
○岸田 典子（（株）クロス・マーケティング）

SB19-5

オンライン調査におけるサンプリングバイアスの軽減の試み
松島 貴史（楽天リサーチ株式会社），○出口 敬子（楽天リサーチ株式会社　事業企画部）

9 月 6 日（木）　特別セッション（120 分）【第 2 会場 519】
社会調査データ解析　---「データの科学」の方法論と実践

オーガナイザー，司会者，討論者：吉野諒三（統計数理研究所データ科学研究系）

SB20-1

「データの科学」に基づく 文化多様体解析（CULMAN）の実践的展開
---　世界の人々の価値観の地図 ----
○吉野 諒三（統計数理研究所データ科学研究系）

SB20-2

未病のためのデータ解析

コストを加味したカットオフ値の推定

○山岡 和枝（帝京大学大学院公衆衛生学研究科），浅山 敬（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座），井上 まり子（帝京大学大学院公衆衛生学研究科），中尾 睦宏（国際医療福祉大学医学部），中田 善規（帝京大学大学院公衆衛生学研究科），丹後 俊郎（医学統計学研究センター）

SB20-3

宗教的感情・精神性概念一意識の国際比較―

○角田 弘子（日本ウェルネススポーツ大学　スポーツプロモーション学部），林 文（東洋英和女学院大学）

SB20-4

環境配慮行動を喚起するための要因抽出

○鄭 躍軍（同志社大学 文化情報学部）

9 月 6 日（木）　一般セッション（120 分）【第 3 会場 526】
心理・医療

座長：下川敏雄（和歌山県立医科大学）

CA9-1　9:30～9:50

社会経済的地位とソーシャル・キャピタル

○朴 珎怜（早稲田大学政治経済学術院公共経営研究科博士課程修了），稲葉 陽二（日本大学法学部）

CA9-2　9:50～10:10

課題反復に伴う ERP の類似性と正答率の改善との関係

○舩田 眞里子（白鴎大学経営学部），舩田 忠（(株)藤掛商店）

CA9-3　10:10～10:30

診療放射線技師の院内ポジションと能力活用

○片桐 邦彦（地方独立行政法人京都市立病院機構　京都市立病院放射線技術科），名取 隆（立命館大学大学院　テクノロジー・マネジメント研究科　教授）

CA9-4　10:30～10:50

評定判断でのカーソルの運動

○椎名 乾平（早稲田大学教育学部）

CA9-5　10:50～11:10

連続住宅対象窃盗犯の犯罪経歴の有無の予測

elastic net 推定による予測手法の検討

○平間 一樹（科学警察研究所），大塚 祐輔（科学警察研究所），横田 賀英子（科学警察研究所），和智 妙子（科学警察研究所），渡邉 和美（科学警察研究所）

CA9-6　11:10～11:30

BigFive 尺度による医学部新入生の性格特性

○安田 晃（島根大学医学部），平野 章二（島根大学医学部医療情報学講座），津本 周作（島根大学医学部医療情報学講座）

9 月 6 日（木）　一般セッション（120 分）【第 4 会場 527】
子どもを対象とした計量分析

座長：上野雄史（静岡県立大学）

CA10-1 9:30～9:50

ケータイ利用のライフスタイル研究(1)

子どものスマホ・ケータイ利用

○飽戸 弘（東京大学（名誉教授）），鈴木 孝幸樹（NTT ドコモ モバイル社会研究所），栗原 俊介（NTT ドコモ モバイル社会研究所）

CA10-2 9:50～10:10

ケータイ利用のライフスタイル研究(2)

小中学生のスマホ・ケータイ利用

飽戸 弘（東京大学(名誉教授)），鈴木 孝幸樹（NTT ドコモ モバイル社会研究所），○栗原 俊介（NTT ドコモ モバイル社会研究所）

CA10-3 10:10～10:30

ケータイ利用のライフスタイル研究（3）

―歩きスマホに対する態度（自己・他者）と特性―

飽戸 弘（東京大学（名誉教授）），鈴木 孝幸樹（NTT ドコモ モバイル社会研究所），○水野 一成（（株）NTTドコモ モバイル社会研究所）

CA10-4 10:30～10:50

ケータイ利用のライフスタイル研究(4)

――ケータイ端末選択に影響する要因――

飽戸 弘（東京大学（名誉教授）），鈴木 孝幸樹（NTT ドコモ モバイル社会研究所），○松本 卓（NTTドコモ モバイル社会研究所）

CA10-5 10:50～11:10

アンケート調査による中高生の災害意識の特徴分析

○山田 実俊（東海大学情報技術センター），田島 祥（東海大学現代教養センター），梶田 佳孝（東海大学工学部），内田 理（東海大学情報理工学部），山本 義郎（東海大学理学部）

9 月 6 日（木）　ラウンドテーブルディスカッション（120 分）【第 9 会場 515】
調査手法の課題　－新しい展開を探る－

オーガナイザー，討論者：松本渉（関西大学総合情報学部）
司会者，討論者：袰岩晶（国立教育政策研究所）

SB21-1

個別訪問面接調査の課題と今後
○前田 忠彦（情報・システム研究機構 統計数理研究所）

SB21-2

パラデータの有用性の検討
異なる調査モードのパラデータの比較
○松本 渉（関西大学総合情報学部），前田 忠彦（統計数理研究所）

SB21-3

予備調査の新たな形
－無作為配分実験と統計的モデリング－
○木村 邦博（東北大学大学院文学研究科）

12:30-14:30

9 月 6 日（木）　特別セッション（120 分）【第 1 会場 517】
データ分析によるマーケティング・イノベーション

オーガナイザー：鶴見裕之（横浜国立大学）

SB22-1

マーケティングにおけるデータ市場活用に向けた課題分析
小口 裕（（株）日本リサーチセンター），○土田 尚弘（（株）日本リサーチセンター）

SB22-2

時系列モデルを用いた多メディアの統合的広告効果測定
○崎濱 栄治（横浜国立大学大学院）

SB22-3

食品小売業の売場でのメッセージ配信が買物客の購買行動に及ぼす影響 －店頭実験によるスマートフォンと Beacon を活用した販売促進施策の効果測定－
○三坂 昇司（公益財団法人流通経済研究所／千葉大学大学院融合理工学府）

SB22-4

質問紙調査データの空間統計学的分析に基づく情緒的商圏ニーズ分析
○小野 滋（株式会社インサイトファクトリー），北澤 宏明（資生堂ジャパン株式会社）

SB22-5

一般市民による自動体外式除細動器(AED)の使用から見えてくるもの

○田久 浩志(国士舘大学大学院救急システム研究科), 田中 秀治(国士舘大学大学院救急システム研究科), 月ヶ瀬 恭子(国士舘大学防災・救急救助総合研究所)

9 月 6 日(木)　特別セッション(120 分)【第 2 会場 519】
Web 調査導入に伴う発想の転換

オーガナイザー, 司会者:増田真也(慶応義塾大学看護医療学部)

オーガナイザー, 司会者:吉村治正(奈良大学)

討論者:鈴木督久((株)日経リサーチ), 椎名乾平(早稲田大学)

SB23-1

ウェブ調査の職業的回答者は問題とされるべきなのか

○吉村 治正(奈良大学)

SB23-2

公募型 Web 調査における回答中断行動と回答者特性

○山田 一成(東洋大学社会学部)

SB23-3

選択肢レイアウトはいかに回答に影響するか

－階層帰属意識の測定における言語および数値ラベルの効果－

○木村 邦博(東北大学大学院文学研究科), 上原 俊介(鈴鹿医療科学大学)

SB23-4

最小限化から見た中間選択と Don't know 選択の違い―継時的判断や回答時間での検討

○増田 真也(慶應義塾大学), 坂上 貴之(慶應義塾大学), 森井 真広(慶應義塾大学)

9 月 6 日(木)　一般セッション(120 分)【第 3 会場 526】
統計理論

座長:中村永友(札幌学院大学)

CA11-1 12:30～12:50

条件付き周辺尤度によるベイズ分類器の構造学習

○菅原 聖太(電気通信大学情報理工学研究科), 宇都 雅輝(電気通信大学), 植野 真臣(電気通信大学)

CA11-2 12:50～13:10

Bayes factor を用いた制約ベースアプローチに基づく大規模ベイジアンネットワーク学習

○名取 和樹(電気通信大学大学院情報理工学研究科), 宇都 雅輝(電気通信大学大学院情報理工学研究科), 植野 真臣(電気通信大学大学院情報理工学研究科)

CA11-3 13:10～13:30

共分散構造のモデル選択における予測期待最小自乗規準

○小笠原 春彦（小樽商科大学）

CA11-4 13:30～13:50

情報量基準を用いた混合正規分布のモデル推定

鈴木 譲（大阪大学大学院基礎工学研究科），○吉岡 凜太郎（大阪大学院基礎工学研究科システム創成専攻）

CA11-5 13:50～14:10

分枝限定法でモデル選択の計算量を低減する

○鈴木 譲（大阪大学 大学院基礎工学研究科）

CA11-6 14:10～14:30

The simulation for expectation of Bayesian evidence in model selection of density estimator

Topology oriented noise reduction for 200 simulated observations from log-normal density

○岸 清武

9 月 6 日（木）　一般セッション（120 分）【第 4 会場 527】
計量文献学

座長：上野雄史（静岡県立大学）

CA12-1 12:30～12:50

現代日本語小説の文体的特徴の変化について

大正・昭和の作品を中心として

○李 広微（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

CA12-2 12:50～13:10

方言録音文字化資料における拍 bigram を用いたトピックモデルによる方言分類

○入江 さやか（同志社大学大学院文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

CA12-3 13:10～13:30

著者判別分析における形態素解析辞書選択

○上阪 彩香（大阪大学）

CA12-4 13:30～13:50

音素を文体特徴量とした日本語著者識別

○孫 昊（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

CA12-5 13:50～14:10

著者識別における文型特徴量の有効性に関する比較分析

○黄 善玉（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

CA12-6 14:10～14:30

文章の著者識別における fastText の性能の比較研究

○柳 燁佳（同志社大学文化情報学研究科），金 明哲（同志社大学文化情報学部）

9 月 6 日（木）　ラウンドテーブルディスカッション（120 分）【第 9 会場 515】
「計量政治学」で何を「はかる」か？

オーガナイザー，司会者：岡田陽介（拓殖大学）

SB24-1

計量政治学における「声」の測定

○岡田 陽介（拓殖大学）

SB24-2

計量政治学で「民主主義」を「はかる」

○鎌原 勇太（横浜国立大学都市イノベーション研究院）

SB24-3

多様な人・もののイデオロギーのはかり方

○三輪 洋文（学習院大学法学部）

SB24-4

政治家の選好ははかれるか？

○荒井 紀一郎（首都大学東京 法学部）

M E M O

M E M O

日本行動計量学会第 46 回大会

主　催:日本行動計量学会第 46 回大会実行委員会
共　催:慶應義塾大学 産業研究所
　於　:慶應義塾大学
開催日:2018 年 9 月 3 日～9 月 6 日

○ 実行委員会

大会実行委員会委員長
　星野 崇宏(慶應義塾大学)

実行委員
　繁桝 算男(慶應義塾大学)(顧問)
　増田 真也(慶應義塾大学)
　井上 哲浩(慶應義塾大学)
　谷口 尚子(慶應義塾大学)
　村田 年(慶應義塾大学)
　渡辺 美智子(慶應義塾大学)

　横山 暁(青山学院大学)(副実行委員長)
　松本 渉(関西大学)
　上野 雄史(静岡県立大学)
　宇佐美 慧(東京大学)
　大森 拓哉(多摩大学)
　岡田 謙介(東京大学)
　尾碕 幸謙(筑波大学)
　下川 敏雄(和歌山県立医科大学)
　角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)
　中村 永友(札幌学院大学)
　袰岩 晶(国立教育政策研究所)
　吉田 清隆(神戸親和女子大学)
　竹内 真登(東北学院大学)
　猪狩 良介(法政大学)
　加藤 諒(神戸大学)
　新美 潤一郎(理化学研究所)

○ 協賛(2018 年 7 月 6 日現在)

株式会社 朝倉書店
株式会社 NTT データ数理システム
株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所
株式会社 北大路書房
株式会社 クロス・マーケティング
株式会社 KSP－SP
株式会社 講談社
一般社団法人 社会調査協会
シュプリンガー・ジャパン株式会社
株式会社 創元社
株式会社 ナカニシヤ出版
株式会社 ビデオリサーチ
三菱 UFJ 信託銀行株式会社
株式会社 有斐閣
楽天インサイト株式会社
　(旧:楽天リサーチ株式会社)

編集 : 日本行動計量学会第 46 回大会実行委員会
発行 : 日本行動計量学会